

日経平均株価

4万3378円31銭

▲729円05銭(前日比)

TOPIX

3107.68

▲49.73(前日比)

2025

8/18

月曜日

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒541-0058

大阪府中央区南久宝寺町3丁目2-7

TEL 06-6105-1904



# 動き出した原発新增設

## AI時代の電力消費に備える

今年春に策定された第7次エネルギー基本計画で「原子力発電（原発）を最大限に利用する」が宣言されて以降、具体的な動きが注目されていたが、ここへきて原発の新設計画が表明化してきた。既に米国ではスリーマイル島原発の再稼働を含めて原発の積極的な活用に使っているが、その最大の要因は、AI（人工知能）普及による膨大な電力消費だ。原発新設を急がないとAI時代に日本が世界から遅れを取ってしまう。改めて関連銘柄をピックアップした。

## 三菱重は部品調達協議

実現すれば、

第7次エネルギー基本計画策定以降で「動き出しているのが関西電力（9503）。

1年の東京電力福島第一原発の事故以降で初となる。



関西電力美浜原発

福井県的美浜原発の敷地内で、次世代型の原子炉への建て替えに向けて、地質調査などを再開することを7月22日に正式発表。地質調査を経て原発の新増設が

今回、関西電力の新増設計画が前進すれば東京電力ホールディングス（9501）や中部電力（9504）を含めて全国の電力会社でも新増設計画が進めやすくなるというのが電力株の株高に直結している。新増設計画で重要な役割を担うのが三

日経平均の日足チャート



三菱重工業（7011）だ。今年5月には建て替えに向けて、200社以上の部品メーカーと調達協議を進めていることが報じられ、さまざまな災害に対応できる新型原子炉「革新軽水炉」の安全弁などに

ついて約150品目で調達可能と判断している。原発で世界的にも高い技術を誇るのは三菱重工のほか日揮ホールディングス（1963）、日立製作所（6501）、IHI（7013）、日本製鋼所（5631）、三菱電機（6503）で、このほか、岡野バルブ製造（6492）や木村化工機（6378）、助川電気工業（7711）なども注目される。

# 大手金融株軒並み安 金利低下で利ザヤ縮小懸念

週明け4日、三菱UFJファイナンシャル・グループ(8306)や三井住友フィナンシャルグループ(8163)を大手金融株が軒並み安。米7月雇用統計の悪化から9月にFRBが利下げに踏み切る可能性が高まり、国内も金利低下傾向で利ザヤ縮小懸念が台頭した。

## 任天堂スイッチ2計画超

任天堂(7974)が朝安の後切り返し大幅反発。前週末取引終了後に発表した26年3月期第1四半期の連結決算は、売上高5723億6300万円(前年同期比2・3倍)と大幅増収で着地、プロモーション費用負担

## 8月第1週の動意銘柄

下傾向で利ザヤ縮小懸念が台頭した。

で営業益は微増益ながら、新型ゲーム機「Nintendo Switch 2」(ニンテンドースイッチ・ツー)の大ヒットを確認した。さらに、「スイッチ2」の販売台数が世界全体で600万台超と計画を大きく上回り、米国で値上げすること明らかにしたことから業績上振れが期待された。

## 原油先Wブル急落

NEXT OILS トバ  
原油先物ダ  
ブル・ブルE  
TN(2038)  
が急落。OPECプラスのうち、サウジアラビアやロシアなど8カ国が9月の原油の生産量を8月より1日当たり54万7000バレル増やすと表明、原油価格下落の可能性が指摘されている。

## 正直いいさんの株で大判小判

前週の東京市場は大幅に続伸。日経平均は前の週から1557円上昇しています。3連休明けの12日早々から900円近い急騰でTOPIXに続いて日経平均も最高値を更新、翌13日まで前の週から6連騰となり、一気に4万3000円台まで上昇しています。14日はベッを受けドルから急ピ動安になりは前日の下再び最高値を更新しました。短期的な過熱業績からも割すが、需給は良上げは続きそう数で最高値を更イスだけになりました。週明けはチェックした好決算銘柄のなかから小型グロース株の修正高を狙う一方、主力株の押し目待つ考えです。

花咲翁

短期的な過熱業績からも割すが、需給は良上げは続きそう数で最高値を更イスだけになりました。週明けはチェックした好決算銘柄のなかから小型グロース株の修正高を狙う一方、主力株の押し目待つ考えです。

グロースの修正高狙う

高感度が意識されている好で基調は強く全般底です。全面高商況で指新していないのはグロ



## 三菱重1Q25%増益

三菱重工業(7011)が上場来高値を更新した。26年3月期第1四半期の連結決算は、売上高1兆1936億5200万円(前年同期比7・4%増)、事業利益1041億6200万円(同

## LINEヤフ2ケタ減益

LINEヤフー(4689)が急落。26年3月期の第1四半期決算は、連結営業利益で前年同期比11・0%減の950億7100万円となった。前年同期に子会社の支配喪失利益(非現

## 堀田丸正がストップ高

6日、堀田丸正(8105)が連続ストップ高。親会社のRIZAPグループ(2928)が株式の30%をBakkt Opc o H o l

dings に譲渡すると発表した。Bakkt Opc o H o l d i n g s はデジタル資産の売買、管理、決済、報酬などに関連するプラットフォームやサービスを提供していることから暗号資産関連との評価が高まった。



## オルガノ急伸し最高値

5日、オルガノ(6368)が急伸、最高値を更新した。26年3月期の業績予想について、連結営業利益で315億円から340億円(前期比9・3%増)へ上方修正した。台湾における電子産業分野の大型プラント案件の受注など、主に海外の電子産業分野の大型プラ

ント案件の上期の工事進捗が期初の想定を上回った。

三菱重工業(7011)が上場来高値を更新した。26年3月期第1四半期の連結決算は、売上高1兆1936億5200万円(前年同期比7・4%増)、事業利益1041億6200万円(同



# ダイヘンがストップ高

## 第1四半期3.5倍営業増益

6日、ダイヘン（622）がストップ

高。26年3月期の第1四半期（4～6月）決算は、連結営業利益で前年同期比3.5倍の31億6300万円となったことが好感された。再生可能エネルギー関連投資や受変電設備の更新需要が増加した。併せて「SISTシステム」の創出を実現する共創基盤「NEDO公募事業」に採択された

### ソフトフロント事業

るコンサルティング業務の開始を発表したことが好感された。AIデータセンター開設に関する建設工事と周辺業務の最適化されたノウハウを提供する方針で、第一弾として大阪堺区エリアにおけるAIデータセンターの開設関連業務に参画するという。

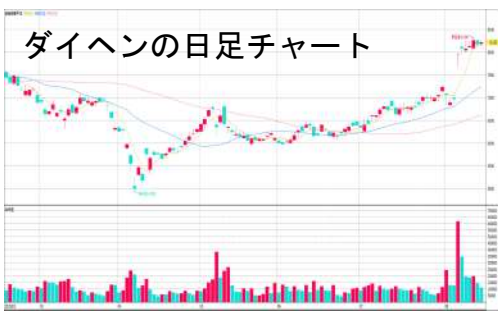
に推移する。

### エムスリーがストップ高

## シスメックス下方修正

7日、シスメックス（6869）が急反落。同社は6日の取引終了後、26年3月期の業績予想の修正を発表、第2四半期累計（4～9月）連結売上高で2525億円から2400億円（前年同期比1.0%減）へ、営業利益で445億円から360億円（同19.1%減）へ下方修正した。日本地域で中国地域での売上高が当初想定より軟調

移した。現場のDX化支援などの事業が堅調に推



## 松井証券

今こそ始めるデイトレード

## 松井証券の一日信用取引

手数料 0円 金利・貸株料 0～1.8%

取引  
コスト

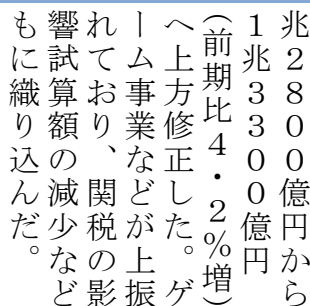
プレミアム  
空売り

独自  
サービス

最短3分でお申込み完了!

【無料】新規口座開設はこちら  
marketpress.jpのバナーをクリック





7日、ソニーグループ（6758）が後場急伸。同社はこの12時に、26年3月期の業績予想の修正を発表、連結営業利益で1

## 8月第2週の動意銘柄

## 中外藥試驗結果失望

週末8日、ソフトバンクグループ（984）が大幅に4日続伸。26年3月期の第1四半期（46月）決算は、連結税引前利益で前年同期比3.1倍の6899億4100万円となった。SVF事業からの投資利益6602億円を計上している。

SBG大幅4日続伸  
1Q税引前利益3・1倍

木徳神糧大幅上方修正

販売の権利を持つ経  
口肥満治療薬の後期  
臨床試験結果への失  
望感が強まった。服  
用した被験者の72  
週時点での体重減少  
は平均12・4%で、  
競合薬の減少率に及  
ばず、副作用による  
投与中止率の水準も  
高かったという。米  
国株市場でイーライ  
リリー株は14%超  
の急落となっていた。

## 裁定買い残急増

先週の東京株式市場は続伸し、前週のTOPIXにつづき日経平均も最高値を更新しました。決算発表がほぼ一巡しましたが、3期ぶりに減益となる冴えない状況にも関わらず株価は最高値に押し上げられました。これは需給面による上昇と考えられます。8月5日から13日まで6連騰で日経平均は約3000円上昇しましたが、8月SQ値を一度も割

先週の東京株式市場は続伸し、前週のTOPIXにつづき日経平均も最高値を更新しました。決算発表がほぼ一巡しましたが、3期ぶりに減益となる冴えない状況にも関わらず株価は最高値に押し上げられました。

これは需給面による上昇と考えられます。8月5日から13日まで6連騰で日経平均は約3000円上昇しましたが、8月SQ値を一度も割り込まず推移したことで、この間、裁定買い残が6.1億株から8.1億株へと2億株も急増し買いが買いを呼ぶ展開へと発展しました。押し目らしい押し目がなかっただけに乗り遅れた投資家が居ても立っても居られず買い向かったと思われる。

しかし、テクニカル指標では過熱シグナルが点灯しており要注意。ボリンジャーバンドのプラス1 $\sigma$ を割り込む場合はスパッと降りれる投資家だけが参加すべき状況です。

日々勇太郎



## ～決算情報～

T O A

第1四半期増収黒字浮上  
国内収益改善し海外は買収効果

T O A (6809) の26年3月期第1四半期の連結決算は、売上高111億7900万円（前の期比1.8%増）、営業利益3億6300万円（前年同期9100万円の赤字）、最終利益2000万円（同1億1200万円の赤字）と増収で黒字に浮上した。

国内は道路や鉄道など交通向けは伸び悩んだものの、オフィスや商業施設向けが伸び収益性が改善。海外ではオランダPAX社買収効果に加え、カナダで教育市場や鉄道施設向けが伸び、収益を牽引した。

通期は売上高545億円（前期比7.7%増）、営業利益45億円（同25.4%増）、最終利益27億5000万円（同16.3%増）と期初計画を据え置いた。年間配当は42円（前期40円）へ増配を計画。

荒川化学工業

1Q増収営業増益で着地  
光硬化樹脂大きく伸び全社収益牽引

荒川化学工業（4968）の26年3月期第1四半期の連結決算は、売上高198億9900万円（前年同期比3.3%増）、営業利益6億8100万円（同9.6%増）で着地した。

スマートフォンやディスプレイ関連の需要回復を背景に機能性コーティング材料用の光硬化型樹脂が大きく伸び全社収益を牽引、半導体関連先端材料のファインケミカル製品や電子材料用配合製品の販売も伸び、水素化石油樹脂については千葉アルコンの稼働率が改善、粘接着・バイオマス事業の赤字が大幅に縮小した。

通期は売上高850億円（前期比5.9%増）、営業利益28億円（同2.6倍）と期初予想を据え置いた。年間配当は50円（前の期49円）を計画。

サンリオ日足チャート



12日、サンリオ（8136）が急反発に転じた。28日の取引終了後、26年3月期の業績予想の修正を発表、連結売上高で1682億円、修正後1682億円、前期比16.8%増（前期比16.8%増）へ、営業利益で3600億円（同29.6%増）へ上方修正、年間配当で54円から60円（前期53円）へ引き上げた。国内の店舗・テーマパークは、グローバル

サンリオが急反発

上方修正で配当引上げ

パークは、グローバル

## マイクロニクス下方修正

メモリー向けプロセッサの一部の既存工場が生じ、製品出荷の遅延により一部影響を受けたとしている。エクササイズ黒字浮上（4259）がストックプ高。26年3月期第1四半期連結決算で、営業損益が1億

本マイクロナクス（6871）が大幅反落。25年11月期累計の連結業績予想について、営業利益を124億1千円（前期1億2400万円の黒字）と前回予想を据え置いた。

## 公開価格の2倍

アクセルスペースの初値（402A）が東証グロース市場に新規上場、公開価格375円の2.0倍となる751円で初値が生まれた。小型衛星の設計・製造・打上げ運用サービスと光学衛星画像の販売、衛星画像を用いたソリューションサービスの提供を行う。

ルでのサンリオキャラクター人気の高まりや様々な施策が奏功し、外国人観光客や国内客が増加し収益を押し上げた。



## ～決算情報～

## 日本トリム

第1四半期9%増収で着地  
6月整水器受注台数過去最高

日本トリム（6788）の26年3月期の第1四半期（4～6月）は連結売上高59億4900万円（前年同期比9.0%増）、営業利益5億7600万円（同25.4%減）、純利益4億1000万円（同29.4%減）となった。整水器販売では職域販売部門で注力しているスポーツ分野や美容分野での販路開拓が進んでおり、6月の受注台数では月間での過去最高を更新している。一方、更なる業容拡大に向けた人的投資やインドネシアのボトルウォーター事業における広告費用増が利益を圧迫しており、前期計上した投資有価証券売却益の反動も減益に繋がっている。通期は連結売上高250億円（前期比11.3%増）、営業利益35億4000万円（同7.7%増）、純利益で23億円（同2.6%増）を据え置いた。

## 大和ハウス工業

第1四半期は前年並み確保  
通期予想据置きも期末配当引き上げ

大和ハウス工業（1925）の26年3月期第1四半期の連結決算は、売上高1兆2921億4400万円（前年同期比0.4%増）、営業利益1181億1600万円（同3.1%減）で着地した。

商業施設は物件売却の減少で伸び悩んだが、事業施設は大型物流施設の竣工などで底堅く推移、マンションは増収ながら減益になったが、賃貸住宅が省エネ・創エネ対応のZEH-M物件や高品質賃貸住宅「D-ROOM」の取り扱い強化で収益を改善し、全社として前年同期並みを確保した。

通期は売上高5兆6000億円（前期比3.0%増）、営業利益4700億円（同14.0%減）と期初予想を据え置いたが、期末配当を90円から95円に引き上げた。

アシックスの日足チャート



## アシックスは最高値

## 上方修正で最高業績見込む

アシックス（1331）は13日、13日連続高値を更新し、5月期の連結業績予想を上方修正した。高値を売上、予想業績を上方修正した。高値を売上、予想業績を上方修正した。高値を売上、予想業績を上方修正した。

パリミキHD未達懸念  
パリミキホールディングス（7455）は26年3月期第1四半期の連結決算は、営業利益3億1200万円

パリミキHD未達懸念  
パリミキホールディングス（7455）は26年3月期第1四半期の連結決算は、営業利益3億1200万円

セグエ営業益2.1倍へ増額  
セグエ（3968）は26年3月期第1四半期の連結決算は、営業利益3億2800万円（前期比32.5%増）へ、営業利益で12億6000万円（同120%増）から15億1200万円（同21%増）へ上方修正した。政府のデジタルガバメント政策のもと、中央省庁や地方自治体によるIT投資が着実に増加しており、中央省庁向け超大型案件を含め受注が順調に進捗している。

セグエ営業益2.1倍へ増額  
セグエ（3968）は26年3月期第1四半期の連結決算は、営業利益3億2800万円（前期比32.5%増）へ、営業利益で12億6000万円（同120%増）から15億1200万円（同21%増）へ上方修正した。政府のデジタルガバメント政策のもと、中央省庁や地方自治体によるIT投資が着実に増加しており、中央省庁向け超大型案件を含め受注が順調に進捗している。

パリミキHD未達懸念  
パリミキホールディングス（7455）は26年3月期第1四半期の連結決算は、営業利益3億1200万円

セグエ営業益2.1倍へ増額  
セグエ（3968）は26年3月期第1四半期の連結決算は、営業利益3億2800万円（前期比32.5%増）へ、営業利益で12億6000万円（同120%増）から15億1200万円（同21%増）へ上方修正した。政府のデジタルガバメント政策のもと、中央省庁や地方自治体によるIT投資が着実に増加しており、中央省庁向け超大型案件を含め受注が順調に進捗している。

セグエ営業益2.1倍へ増額  
セグエ（3968）は26年3月期第1四半期の連結決算は、営業利益3億2800万円（前期比32.5%増）へ、営業利益で12億6000万円（同120%増）から15億1200万円（同21%増）へ上方修正した。政府のデジタルガバメント政策のもと、中央省庁や地方自治体によるIT投資が着実に増加しており、中央省庁向け超大型案件を含め受注が順調に進捗している。

25年12月期第2  
半期累計の連結決算  
は、最終損益736  
億4700万円の赤  
字（前年同期55億  
6400万円の赤字  
）に転落、通期予想  
を100億円の赤字  
から754億円の赤  
字（前期1921億  
7200万円の赤字  
）に下方修正した。  
海外事業が厳しく米  
州とEMEA地域の  
のれんの減損損失を  
計上したことが響  
く。139円50銭  
を計画していた年間  
配当を未定にした。

**京都きもの友禪連続S高**

京都きもの友禪ホ  
ールディングス（7  
615）が2日連続  
でストップ高。26  
年3月期の第1四半  
期累計決算は、連結  
営業利益で1億60  
0万円（前年同期3  
億1600万円の赤  
字）となったことが  
引き続き好感された。  
既存顧客への接点強  
化や収益管理、新規  
顧客獲得施策が成果  
をあげてている。

## ～決算情報～

## 新コスモス電機

第1四半期は21%営業増益  
家庭用、工業用とも好調に推移

新コスモス電機（6824）の26年3月期の第1四半期（4～6月）は連結売上高109億8500万円（前年同期比16.3%増）、営業利益15億9600万円（同21.2%増）、純利益9億5500万円（同19.3%増）となった。

家庭用ガス警報器関連では北米向けの電池式メタン警報器と警報器用ガスセンサが引き続き好調に推移。工業用定置式ガス検知警報器関連では電力業界向けや化学業界向けガス検知警報器やメンテナンスサービスは好調に推移したものの、半導体業界向けガス検知警報器が低調に推移した。

通期は売上高480億円（前期比13.9%増）、営業利益56億円（同8.6%増）、純利益34億5000万円（同2.2%増）の従来予想を据え置いた。

## 三相電機

大幅上方修正で営業益8倍  
半導体装置ポンプ想定上回る受注

三相電機（6518）は26年3月期通期の連結業績予想をについて、売上高を165億円から164億円（前期比2.3%増）へ小幅に下方修正したが、営業利益を1億2000万円から5億5000万円（同8.0倍）、最終利益を1億1000万円から3億7000万円（同3.1倍）へ大幅に上方修正した。売上高は概ね計画どおりながら、半導体製造装置用ポンプの一部製品で想定を上回る受注があり、機種構成の変動により収益性が急改善、利益が計画を大きく上振れる。

第1四半期の連結決算は、売上高39億7100万円（前年同期比9.9%増）、営業利益2億100万円（前年同期6600万円の赤字）、最終利益1億6000万円（同5400万円の赤字）と増収で黒字に浮上した。

## クオルテック

26年6月期増収増益予想  
信頼性評価、微細加工の拡大続く

クオルテック（9165）の25年6月期の単体決算は、売上高40億2500万円（前年同期比11.1%増）、営業利益3億8400万円（同0.9%増）で着地した。

主要ユーザーの車載業界ではパワー半導体の高効率化、小型化、低コスト化への取り組みが活発化するなど電動化に向けた動きが加速しており、主力の信頼性評価が2ケタ超の伸びとなった。次世代半導体を中心とした研究開発など販管費・研究開発費増をカバーして営業増益を確保した。

26年6月期は売上高44億円（前期比9.3%増）、営業利益4億500万円（同5.4%増）と増収増益を予想した。信頼性評価と微細加工事業が拡大、増収効果で研究開発費負担を吸収し営業増益を見込み、期末一括配当37円を据置いた。

## ナカバヤシ

第1四半期は営業益5.8倍  
大型案件受託やEC販売が堅調

ナカバヤシ（7987）の26年3月期第1四半期の連結決算は、売上高142億3500万円（前年同期1.0%増）、営業利益5億5500万円（前同5.8倍）と増収で利益が大幅に拡大した。

ビジネスプロセスソリューションは入札競争の激化により受注金額が減少したが、大型案件や安定的な新規案件の受託でカバー、採算性重視の案件選別とシステム開発の内製化により増収増益を確保した。コンシューマーコミュニケーションはECでの製品販売が堅調に推移、サイト運営効率化で収益性が向上しており、自社製品の販売も拡大している。

通期は売上高635億円（前期比1.2%増）、営業利益25億4000万円（同42.1%増）と5期ぶりに過去最高益を更新する見込み。年間配当は22円を継続。



## ～決算情報～

大森屋

英和

第3四半期は2.7%増収  
家庭用海苔やふりかけなど伸びる

大森屋（2917）の25年9月期の第3四半期累計（10月～6月）決算は、連結売上高で125億5100万円（前期比2.7%増）、営業損益で6700万円の赤字（前年同期3億4200万円の赤字）、最終損益で純利益で5900万円の赤字（同2億3500万円の黒字）となった。

家庭用海苔では前年同期比で9.2%増収、ふりかけなどについては同0.4%増収となり、進物品と業務用の減少をカバーしたが、原料海苔の収穫量は前年より増加するものの仕入価格は上昇し、電力料や燃料費、物流費も高騰したことから製造コストが増加した。

通期は売上高168億5000万円（前期比3.3%増）、営業利益6500万円（同75.9%減）、純利益1000万円（同94.4%減）の従来予想を据え置いた。

1Qは3.2%増収を確保  
新造船やデジタル投資需要取り込む

英和（9857）の26年3月期の第1四半期（4～6月）は連結売上高95億6500万円（前年同期比3.2%増）、営業利益4億2300万円（同14.4%減）、純利益2億9600万円（同15.3%減）となった。

社会インフラ分野で活用される特殊車両や各種機器の受注が堅調に推移。販売面では、電力業界向けが減少したものの、環境配慮型船舶の建造や新造船の建造需要に絡む販売が増加。加えて、化学業界、鉄鋼業界では、定期修理に伴う設備投資需要の他、生産性向上や技能継承を目的としたデジタル投資需要を取込んだことにより販売が堅調に推移。

ただ、社員の能力開発やエンゲージメント向上を目的とした人材投資の強化に伴い、販売費と一般管理費の増加が利益を圧迫している。

DmMiX

eWeLL

第2四半期21%営業増益  
受注増・単価上昇で増益幅拡大

ダイレクトマーケティングミックス（7354）の25年12月期の第2四半期累計（1～6月）決算は、連結売上収益で116億4100万円（前年同期比8.7%増）、営業利益12億7800万円（同20.9%増）、中間利益7億9400万円（同39.9%増）となった。

マーケティング事業では通信インフラセクターからのアウトバウンド及びハイブリッド分野における業務受託が堅調に推移したほか、新規デジタルサービスの社会実装を担うDXフルフィルメント領域の開拓も進んでおり、受注増・単価上昇で増益幅が拡大した。

通期は売上収益で220億円（前期比5.0%増）、営業利益18億円（同25.5%増）、純利益11億円（同31.8%増）の従来予想を据え置いた。

2Qは5割営業増益達成  
「iBow」の新規顧客獲得が順調

eWeLL（5038）の25年12月期の第2四半期累計（1～6月）決算は、売上高で16億300万円（前年同期比33.0%増）、営業利益で7億8800万円（同49.2%増）と大幅な増収増益となった。

2024年に提供を開始した訪問看護業務の効率化に貢献する「AI訪問看護計画・報告」に続くAIを活用した新サービス「AI訪問予定・ルート」の開発を推進するとともに、地域包括ケアプラットフォームである「けあログっと」の機能拡充など、マルチプロダクト戦略を推進。この結果、主力サービス「iBow」の新規顧客獲得が順調に推移している。

通期は売上高33億4900万円（前期比30.3%増）、営業利益14億9400万円（同31.6%増）と従来予想を据え置いた。

## 潮流

## 欧米株に比べまだ割安

## 米景気変調で逆回転リスクに注意

marKet / bAnk

水準にあるべきだ」と述べた。9月に0.5%の利下げを始めてから、利下げを続けるサイクルに入る可能性がある」と指摘した。9月の米連邦公開市場委員会（FOMC）での利下げ確率は13日時点で100%まで上昇した。

ベッセント氏の発言を好感し米ダウ工業株30種平均は4万4922ドル27セントで終え、昨年12月に付けた最高値（4万5014ドル）まであと90ドルあまりとなった。ハイテク株比率が高いナスダック総合株価指数と多くの機関投資家が運用指標とするS&P500種株価指数は共に2日連続で最高値を更新した。

8月13日、日経平均株価は取引時間中に初めて4万3000円台を突破。取引時間中の過去最高値となる4万3451円46銭をつけた。終値は4万3274円67銭で、史上最高値を更新した。TOPIXも3091.91で取引を終え、4営業日連続で過去最高値を更新した。米国との関税交渉が進展し、企業業績への影響が見通しやすくなったとして、投資家は再びリ

8月13日、ベッセント米財務長官は、政策金利は「1.5～1.75%低い

スク資産を購入している。

米国の利下げ期待と金融緩和などで世界的に膨らんだマネーが株式市場に流れている。

日本企業は2026年3月期、6年ぶりに減益になる見通しだ。将来の業績回復まで見込

んだ買いは、米景気変調などで逆回転するリスクも考えられる。

ベッセント米財務長官は米FRBに利下げを、日本の日銀には利上げの必要性を示唆した。ベッセント氏は、日本銀行の植田総裁と会談したと説明した上で「これは彼ではなく私の意見だが、彼らは後手に回っている。利上げをしてインフレの問題をコントロールする必要がある」と主張した。このコメントを受けて外為市場では円高が進み、14日の日経平均は600円以上下落し、4万3000円の台を割れた。日経平均は6日間で3600円も上昇しており、相当過熱感が高まっていた。

海外投資家は7月第4週まで17週連続で現物株を買い越したが、日本株は欧米株に比べてまだ割安という意識が強い。

潮流銘柄はコンコルディア・フィナンシャルグループ（7186）、太陽ホールディングス（4626）、アーバネットコーポレーション（3242）。

執行活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービ

にNHK番組「経済最前線」にて独自の投資支援システムが紹介された。直近では2024年3月の夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サー



岡山 憲史氏（株式会社マケットバンク代表取締役）のプロフィール  
1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年

米利下げ、日利上げを示唆

コンコルディアの日足チャート





敏腕先物ディーラー

## ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール  
証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。



死角は日銀が保有  
するETFの出口戦略

TOPIXの日足チャート



現在、米国ではトランプ関税発動後もインフレが抑止されており、9月の米FOMCで利下げが確実になってきたので、米国株の一段高期待が日本株買いに繋がっているように、短期的には「死角なし」の状況だが、上昇すると話題になるのが日銀が保有するETFの出口戦略である。簿価が約37兆円で含みものの上昇で同額程度まで膨らんでいると思われる。

先週の日経平均は前週末比1557円高と2週連続で大幅上昇し週足陽線となった。米国の関税問題が完全解決、さらに米国市場の高値更新も好感し、新高値街道をばく進中である。

木曜日には高値圏を警戒する売りで約600円ほど下がったが、金曜日には約700円高と下げを埋める状況となり、相場の強さを感じさせられる展開であった。まさに「売って強さを知る」である。

これは大量の自社株買いが行われ、需給関係が大きく改善されてきたことが影響している。今年も過去最大の約20兆円超の自社株買いが想定されている。この自社株買いが相場の下値を支えているといえる。

# 売って強さを知る！

また、米国ではトランプ関税発動後もインフレが抑止されており、9月の米FOMCで利下げが確実になってきたので、米国株の一段高期待が日本株買いに繋がっているように、短期的には「死角なし」の状況だが、上昇すると話題になるのが日銀が保有するETFの出口戦略である。簿価が約37兆円で含みものの上昇で同額程度まで膨らんでいると思われる。

日経225先物の日足チャート



Fの含み益と国債の評価損を差し引いてもプラスの為、大きな問題になっていないが、国債の評価損だけ残ることにすると日銀による通貨コントロールがしにくくなるのは必ずである。いずれ対処しなければならぬ問題ではあるが、変な形でリークされないよう情報管理も徹底してもらいたい。

今週も堅調な相場展開を想定する。8月に入り約3000円上昇しているのに短期調整がいつ入ってもおかしくはない。5日移動平均線（4万3090円）を引けで割ってくると短期的に調整局面となろう。

今週のレンジは4万2500円～4万3700円を想定する。

（ハチロク）



